

太田川住民意見を聴く会及び太田川の概要について

1.太田川住民意見を聴く会について	1
2.太田川の概要.....	5
3.住民アンケート結果の概要	16

平成19年10月

国土交通省 中国地方整備局

1. 太田川住民意見を聴く会について

1. 河川整備基本方針及び河川整備計画について

河川整備基本方針 (長期的な基本方針) (河川法第16条)

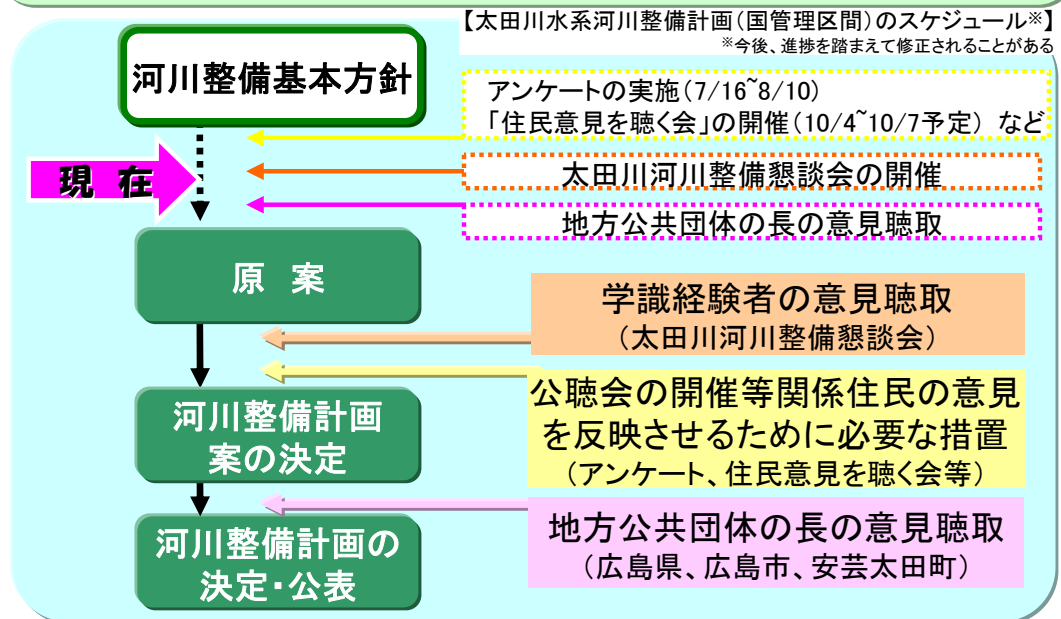
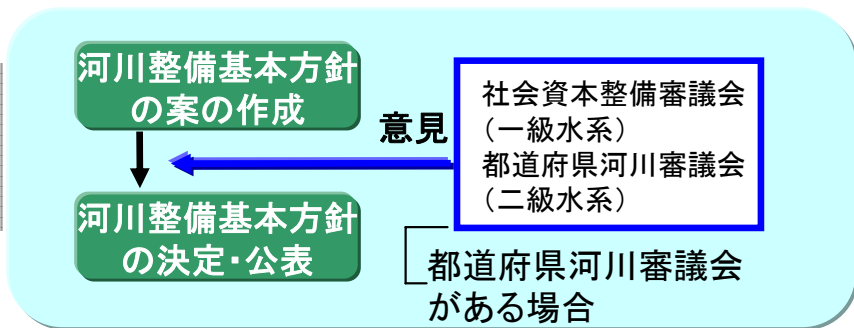
河川整備計画 (河川法第16条の2) (20~30年の具体的・段階的な計画)

内
容

- 1.河川の総合的な保全と利用に関する基本方針
- 2.河川の整備の基本となるべき事項
 - ・基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項
 - ・主要な地点の計画高水流量に関する事項
 - ・主要な地点の計画高水位、計画横断形に係る川幅に関する事項
 - ・主要な地点の流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

- 1.河川整備の目標に関する事項
- 2.河川の整備の実施に関する事項
 - ・河川工事の目的、種類及び施行の場所、並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要
 - ・河川の維持の目的、種類及び施行の場所

手
順



策定者

国土交通大臣

地方整備局長等 または 都道府県知事

策定
範囲

水系ごと

一定の区間ごと(国管理区間など)

太田川
水系

平成19年3月30日策定

区 間		時 期
国管理		平成20年度策定(予定)
広島 県管理	太田川下流ブロック	平成14年2月策定
	三篠川ブロック	平成15年7月策定
	その他	未定

2. 意見聴取の方法

1. 基本的な考え方

＜意見聴取の対象＞

- 1) 河川に関し学識経験を有する者
- 2) 関係住民
- 3) 関係県知事及び関係市町長



＜基本方針＞

- ・それぞれから個々に実施
- #### ＜留意点＞
- ☆透明性、公平性については十分確保

2. 意見聴取の方針

1) 河川に関し学識経験を有する者からの意見聴取

- 学識経験者から構成される「太田川河川整備懇談会」を設置し、意見聴取
- 会議は公開とし、会議資料、議事録は後日太田川河川事務所ホームページに掲載
- 懇談会会場は、公共会議場等を活用

2) 関係住民からの意見聴取

- 「住民意見を聴く会」の開催、アンケートの実施、オープンハウスの開設等により

広く積極的に意見を聴取

- アンケートは、事務所ホームページや新聞折込広告、公的機関等での配布により実施

- ・新聞折込広告については、流域内だけでなく、水道用水供給エリアや

都市用水として供給を受けている江の川流域を含む、広島及び備北生活圏に配布

- 「住民意見を聴く会」は、流域内(国管理区間)の市町(広島市は関係各区)の8箇所で開催

- ・開催に際しては、懇談会委員も同席していただきたい

- ・関係住民の多様な生活スタイルに対応するため開催の時間帯をずらす

- オープンハウスは、太田川河川事務所1階「GoGiルーム」内に開設

- ・GoGiルーム利用時間(土日、祝日、年末年始を除く午前10時～午後5時)は常時開設

- ・質問や(書面による)意見の受付

- その他、意見についてはホームページ、郵送、FAXにより随時受付

3) 関係県知事及び関係市町長からの意見聴取

- 河川整備計画案に対する意見聴取など適宜実施

3. 関係住民からの意見聴取の具体的な方法

住民意見を聴く会

(1)目的

- ・住民への詳細な説明、及び意見聴取

1)第1回住民意見を聴く会

- 太田川の概要説明と川づくりに対する意見聴取

2)第2回住民意見を聴く会

- 河川整備計画原案の説明と原案に対する意見聴取

(2)方法

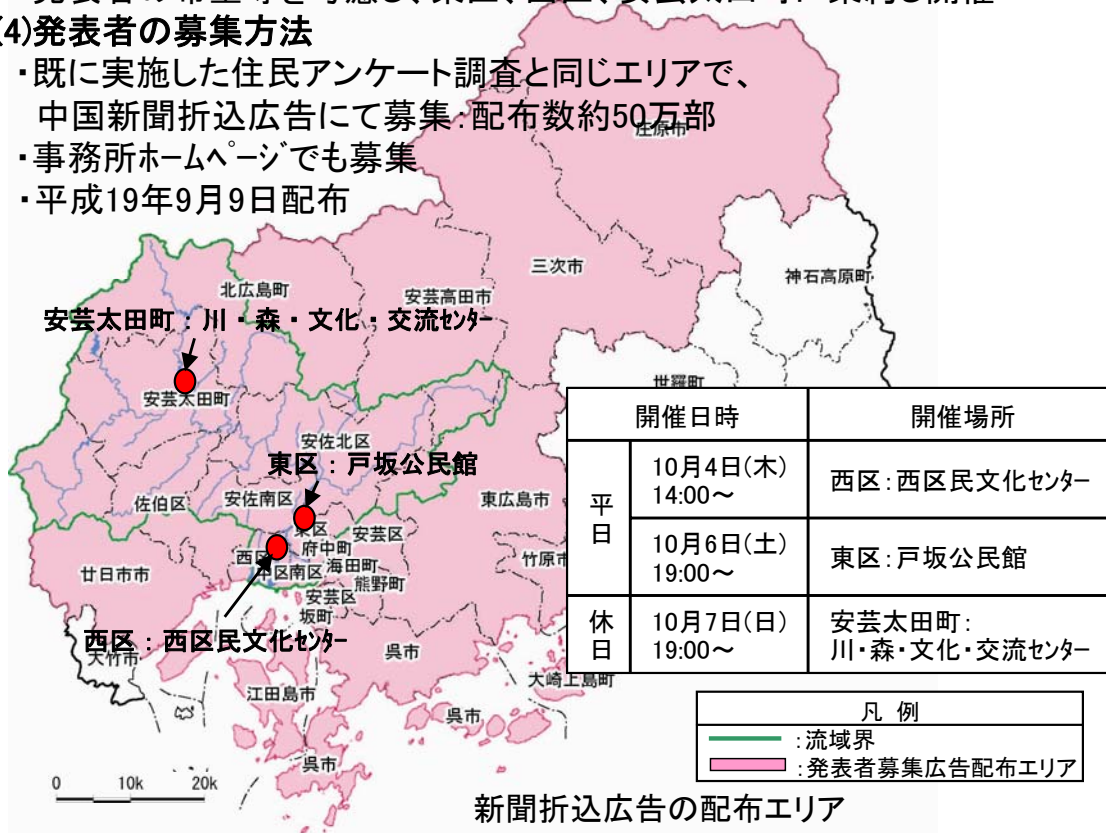
- ・資料説明を行う
- ・発表者を募集し意見を述べていただく

(3)場所と時間

- ・広島市内各区(中・東・南・西・安佐南・安佐北・佐伯区)と、安芸太田町 合計8地区に会場を用意
- ・発表者の希望等を考慮し、東区、西区、安芸太田町に集約し開催

(4)発表者の募集方法

- ・既実施した住民アンケート調査と同じエリアで、中国新聞折込広告にて募集:配布数約50万部
- ・事務所ホームページでも募集
- ・平成19年9月9日配布



住民アンケート(平成19年7月16日実施)

(1)目的

- ・太田川の川づくりに対する意見を幅広く住民から聴取

(2)方法

- ・事務所ホームページや新聞折込広告、公的機関等での配布
<新聞折込広告の概要>

(1)配布エリア

- ・流域内だけでなく、水道用水供給エリアや、都市用水として供給を受けている江の川流域を含む、広島及び備北生活圏に配布
 (大竹市、三原市、尾道市、福山市、府中市、世羅町、神石高原町を除く、広島県内一円)

(2)配布方法と部数

- ・中国新聞折込広告にて配布:約50万部

(3)配布日と実施期間

- ・配布日:平成19年7月16日
- ・実施期間:平成19年7月16日~平成19年8月10日
 (事務所ホームページ等も同様)

オープンハウス

(1)目的

- ・太田川の川づくりに関する広報と意見聴取等

(2)開設場所

- ・GoGiルーム(太田川河川事務所1階)に開設

(3)開設時間

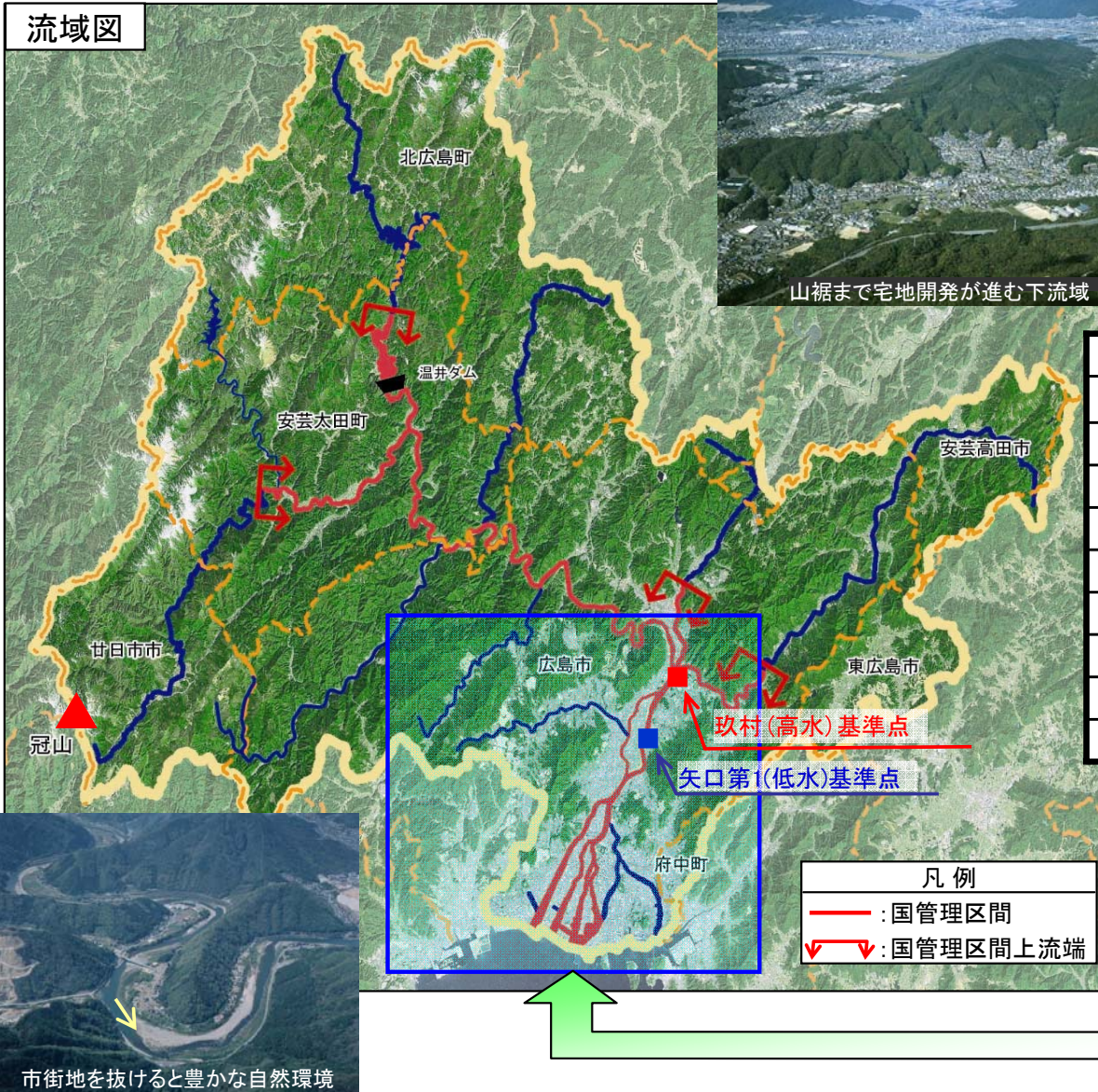
- ・GoGiルーム利用時間
 (土日、祝日、年末年始を除く午前10時~午後5時)



2. 太田川の概要

1. 流域の概要

- 三方を山に囲まれ、狭い低平地に中四国地方唯一の百万都市である広島が密集市街地を形成、市街化は周辺の山裾にも及ぶ
- 人口・資産が高度集積している広島市街地と想定氾濫域が重複
- 政令市にありながら、河口から20km程遡上すれば豊かな自然環境の残る河川



流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積)	約1,710km ²
幹線流路延長	約103km
流域内人口	約98万人
想定氾濫区域面積	約76km ²
想定氾濫区域内人口	約40万人

(※)出典:平成12年河川現況調査結果

国管理区間延長

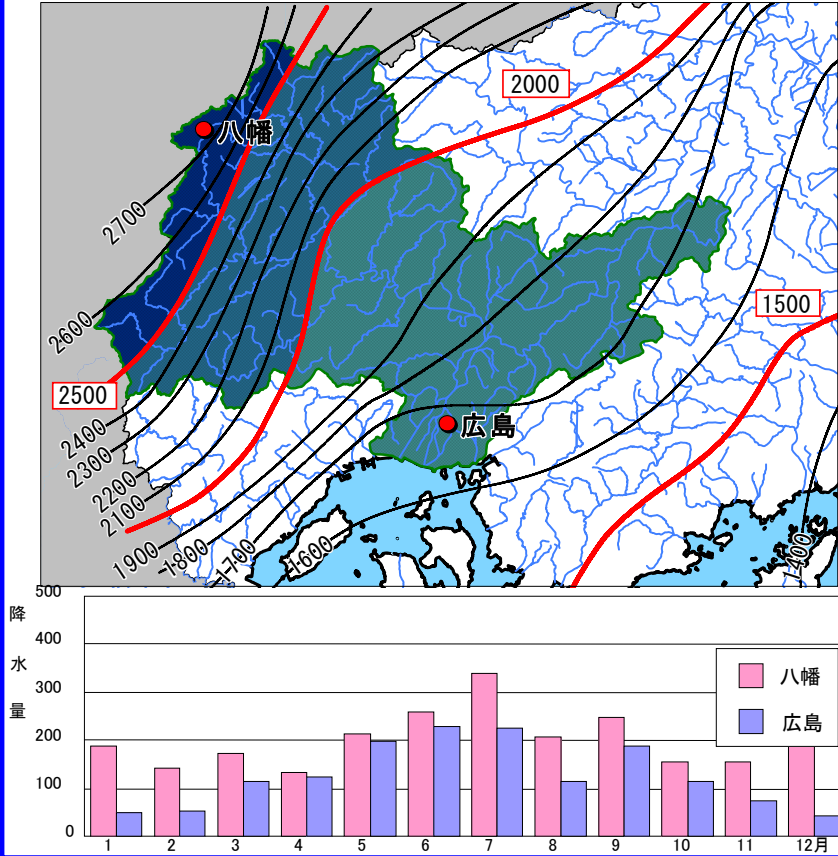
太田川	73.8km
根谷川	5.4km
三篠川	9.5km
滝山川	8.0km
古川	7.2km
天満川	6.4km
旧太田川	8.7km
元安川	5.4km
戸坂川	0.1km



2. 頻発する洪水被害、 平成17年9月洪水は観測史上最大の流量

太田川流域は中国地方で最も多雨

- ・太田川流域は中国地方で最も多雨地域
- ・年平均降水量約1,800mm
- ・上流域では冬期に積雪



頻発する洪水被害

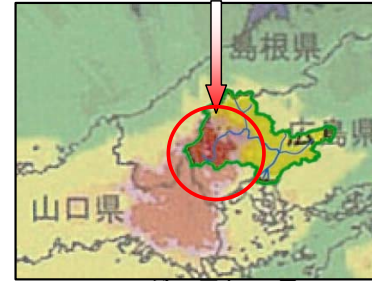
- ・平成11年6月：床上、床下浸水
- ・平成16年9月：道路冠水
- ・平成17年9月：床上、床下浸水
- ・平成18年9月：
 - ・水内川等、支川被害
 - ・死者1名、行方不明1名



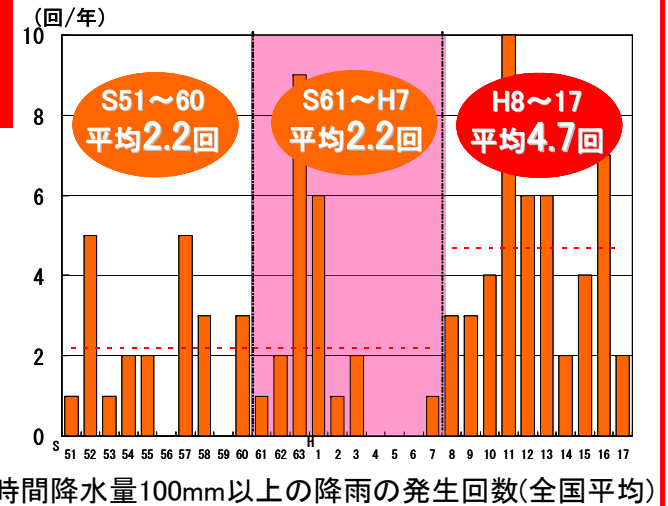
平成17年9月洪水(台風14号)

⇒観測史上最大の流量を観測！

平成17年9月洪水では、太田川本川の上流域で多くの雨



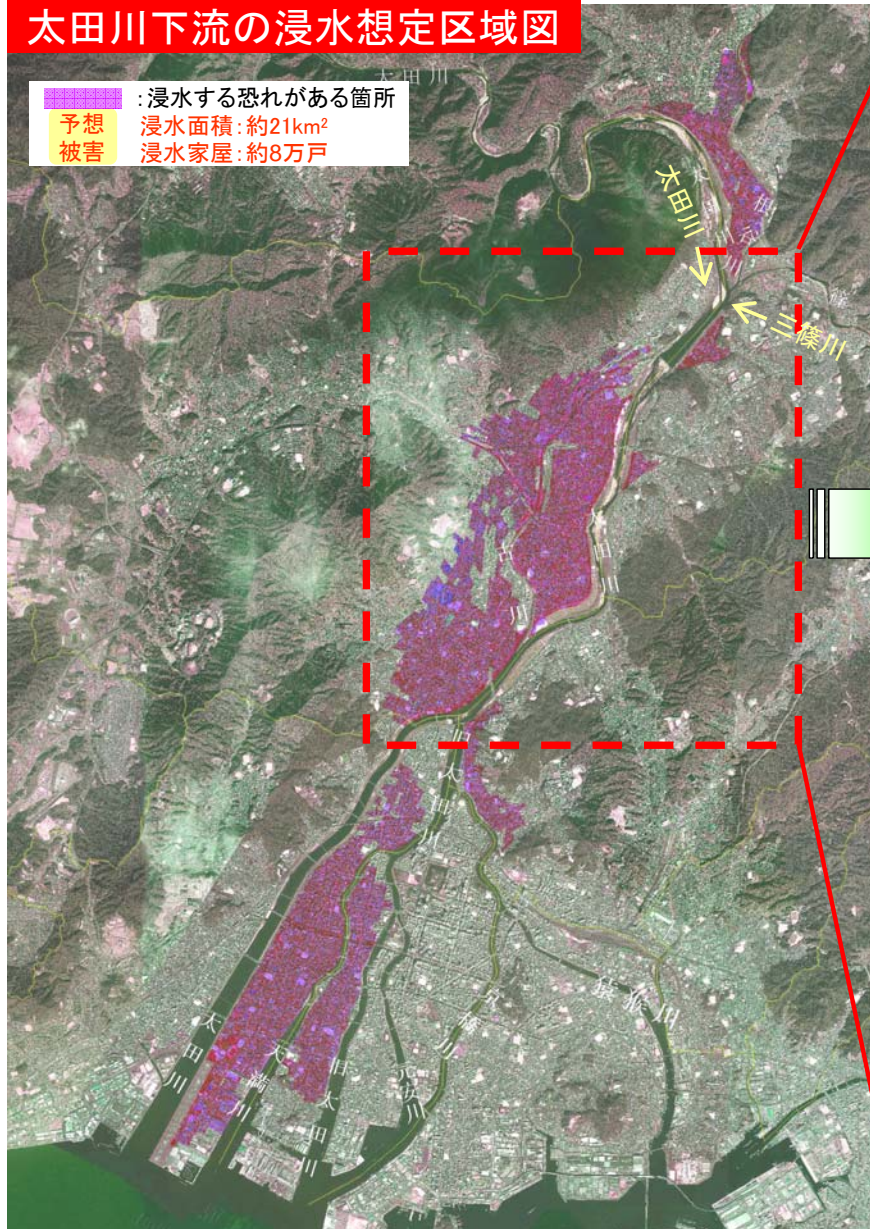
増加傾向にある 集中豪雨の発生頻度



3. もし、あと少し雨が強く降っていたら大水害が発生

- あと少し雨が強く降っていれば、下流部でも氾濫し、広島市街地が水没する危険があった
- 土でできた約7mの高い堤防で守られている。堤防が決壊すれば大災害になる
- 平成17年9月洪水では、堤防が耐えられるギリギリの流量が流れた

太田川下流の浸水想定区域図



堤防の安全性を示す拡大平面図



注)本図は、平成17年9月7日洪水の実績雨量を約1.2倍した時の浸水想定区域を示したものである

4. 水面より低い広島市街地、頻発する高潮被害

- 広島市中心部の地盤が低いため、常時から被災しやすい環境
- 広島湾は南に向いており、台風の吹き寄せの影響を受けやすい
- 広島湾は瀬戸内海で最も干満差が大きいいため、満潮と高潮が重なると被害大

平成になっても5度の高潮被害 今年も危なかった(8月の台風5号)

平成3年9月(台風19号)

最高潮位: T.P.+2.91m 偏差: 1.81m
 床上浸水: 423戸 床下浸水: 1,220戸

平成11年9月(台風18号)

最高潮位: T.P.+2.74m 偏差: 1.84m
 床上浸水: 216戸 床下浸水: 202戸

平成16年8月(台風16号)

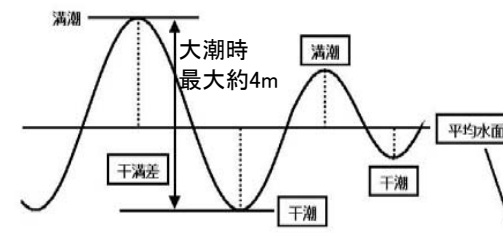
最高潮位: T.P.+2.78m 偏差: 1.79m
 床上浸水: 1戸 床下浸水: 16戸

平成16年9月(台風18号) 既往最高潮位

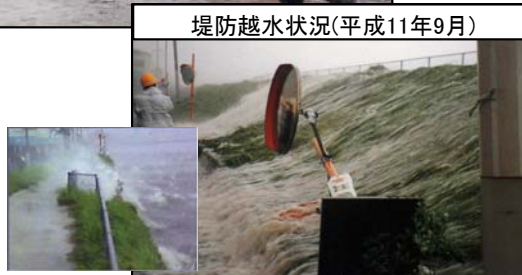
最高潮位: T.P.+2.96m 偏差: 2.09m
 床上浸水: 86戸 床下浸水: 92戸

高潮に対して脆弱な市街地

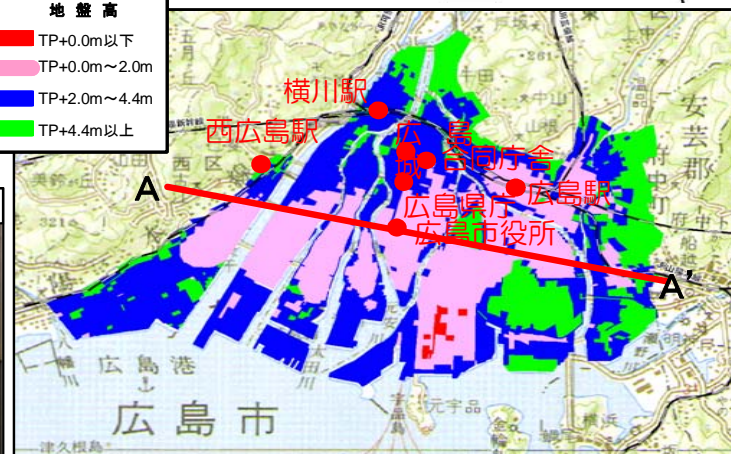
- ・ 広島市中心部の地盤が低いため、常時から被災しやすい環境
- ・ 広島湾は南に向いており、台風の吹き寄せの影響を受けやすい
- ・ 広島湾は瀬戸内海で最も干満差が大きいため、満潮と高潮が重なると被害大



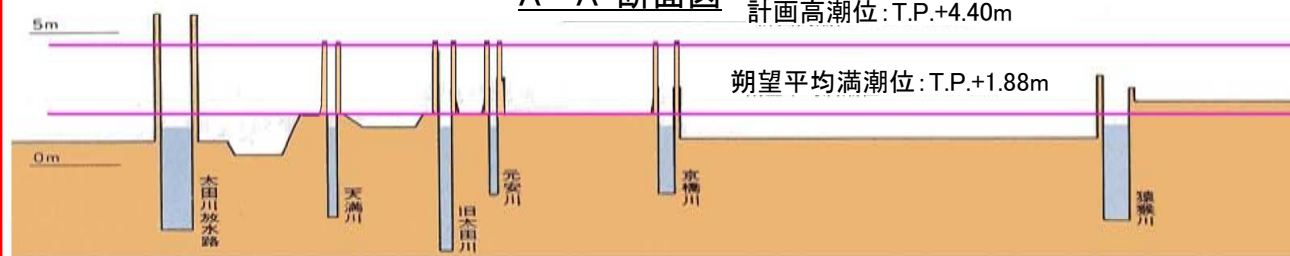
頻繁に浸水被害



- 凡例
 地盤高
- TP+0.0m以下
 - TP+0.0m~2.0m
 - TP+2.0m~4.4m
 - TP+4.4m以上



A-A' 断面図 計画高潮位: T.P.+4.40m

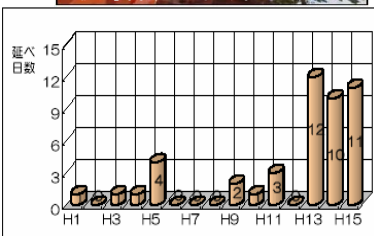


増加する厳島神社の冠水頻度

- ・ 近年の海面水位の上昇傾向や、黒潮流路の蛇行による異常潮の影響により、瀬戸内海における潮位は高くなる傾向
- ・ 上記により厳島神社の冠水頻度は近年急増



厳島神社回廊の冠水回数の推移
 (社務日誌より整備局で作成)



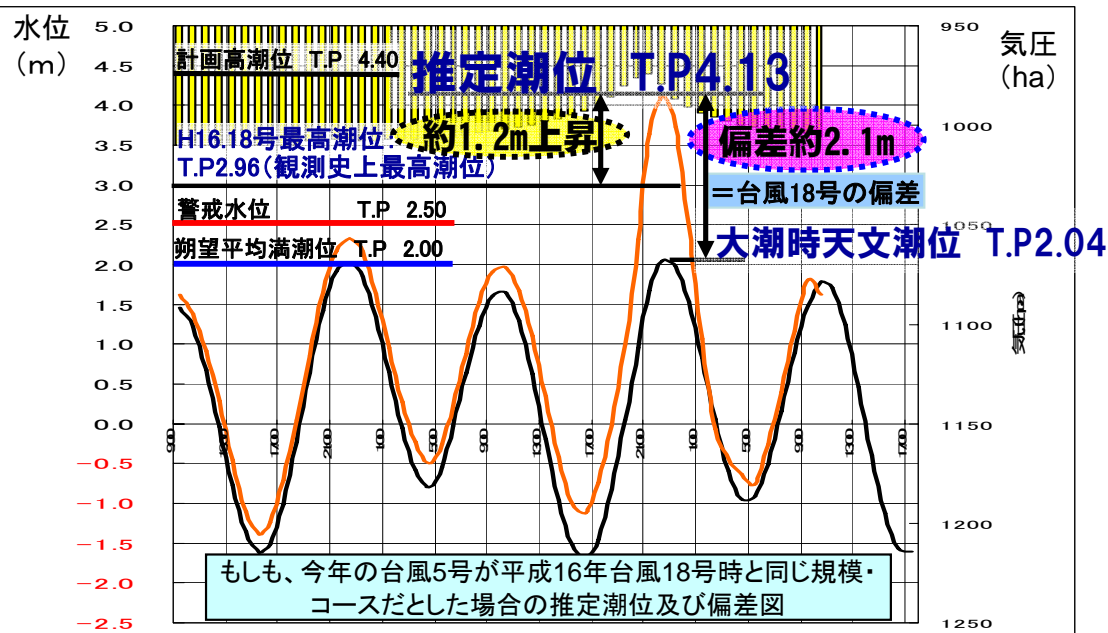
5. もし、今年8月の台風5号が、平成16年台風18号と同じ規模・コース(偏差)であったら...

■もし、今年8月の台風5号が、平成16年台風18号と同じ規模・コース(偏差)であったら...、広島市中心部全域が浸水

平成16年18号台風浸水被害状況



想定浸水被害区域(大潮の満潮位に重なった場合)



台風5号中国地方へ

広島 1万4000人避難勧告

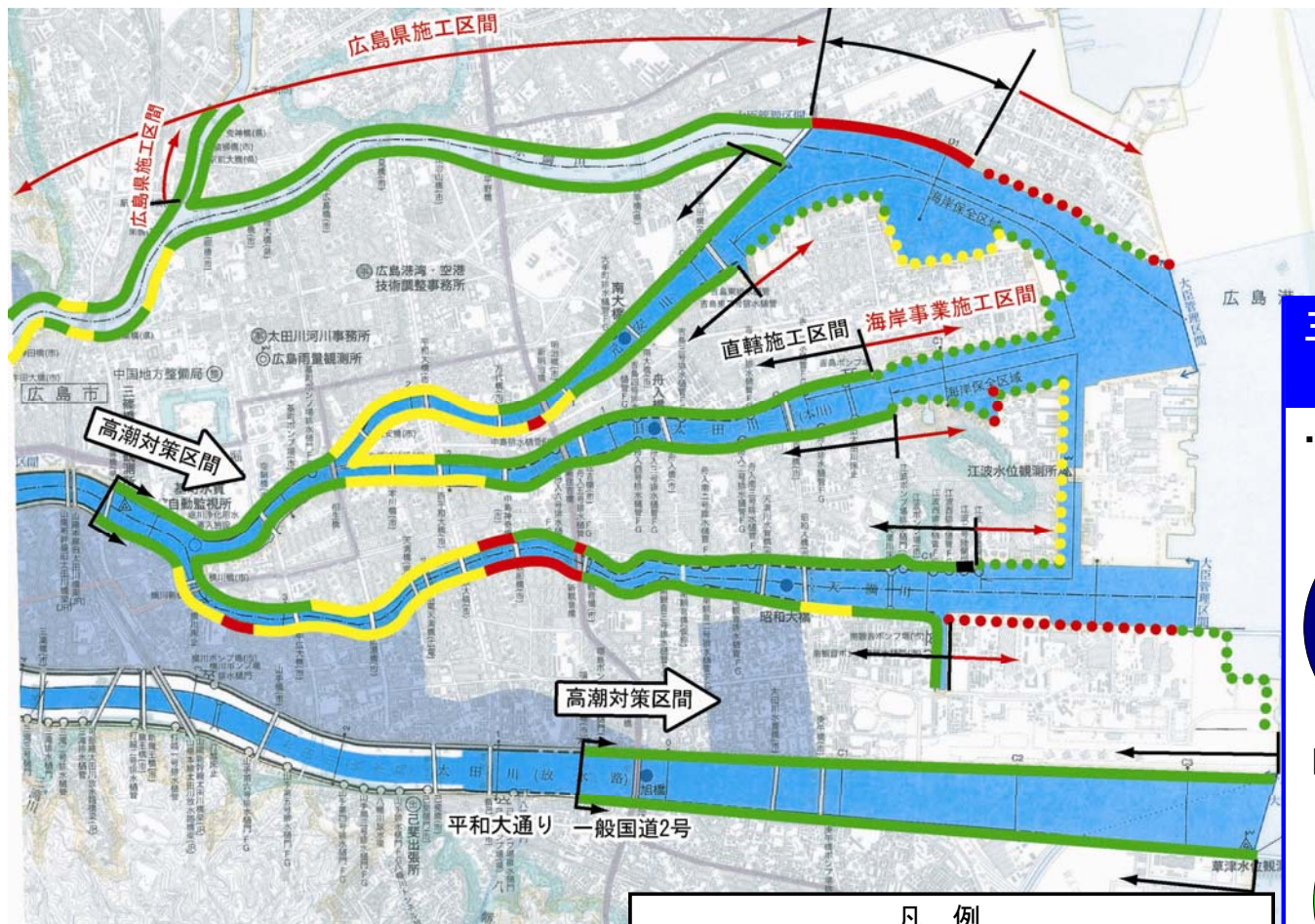
高潮 広島・呉などで冠水
 中国地方は百年に一度の大冠水。広島、山口両県では、思わぬ勢いで冠水し、中国地方各地で、軒を倒す被害も発生。広島市では、冠水した家屋の被害も発生。

台風5号 2日23時現在
 3日0時
 4日21時
 5日21時

中国新聞朝刊(平成19年8月3日付け)

6. 全国的にも遅れている高潮対策

■ 広島湾の高潮対策は、三大湾(東京湾、伊勢湾、大阪湾)の整備水準と比較し著しく遅れている
 ■ 国施工区間における進捗率は過去最高の高潮対策(T.P.3.4m)で90%、
 計画高潮位対応(T.P.4.4m)で46%、**完成堤区間は0%**



凡例

- : 堤防高 完成(計画)堤防高以上
- : 堤防高 T.P.+4.4m以上
- : 堤防高 T.P.+3.4m以上T.P.+4.4m以下
- : 堤防高 T.P.+3.4m以下
- : 海岸保全施設 T.P.+4.4m以上
- : 海岸保全施設 T.P.3.4m以上T.P.+4.4m以下
- : 海岸保全施設 T.P.+3.4m以下

※平成3年、平成11年、平成16年の高潮災害を鑑み、第2段階(T.P.+3.4m)整備を優先して概成、河口域から順に第3段階計画高潮位(T.P.+4.4m)対応を実施中

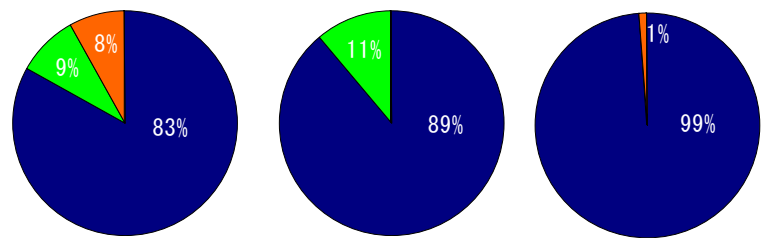
T.P.+3.4mの全体計画延長に対する整備水準

国管理河川	T.P.+3.4m	T.P.+4.4m
全体計画延長	10.9	28.3
整備延長	9.8	16.2
進捗率(%)	90	57

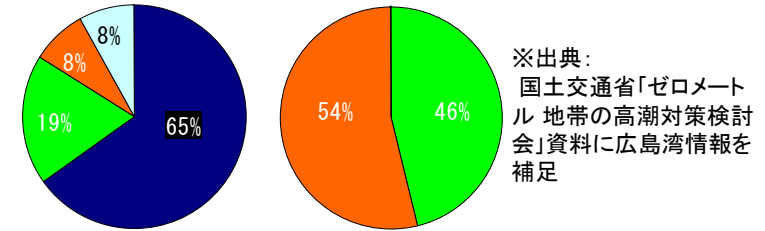
平成17年度末時点
 ※ T.P.+3.4mの全体計画延長は再度災防止区間延長

三大湾と広島湾の高潮対策の整備状況 (堤防の高さ)

・高潮対策は一定の成果が見られるが、整備水準は全国に比較し遅れている



【東京湾: 307km】 【伊勢湾: 141km】 【大阪湾: 182km】



【全国: 15,061km】 【広島湾: 68km】

凡例

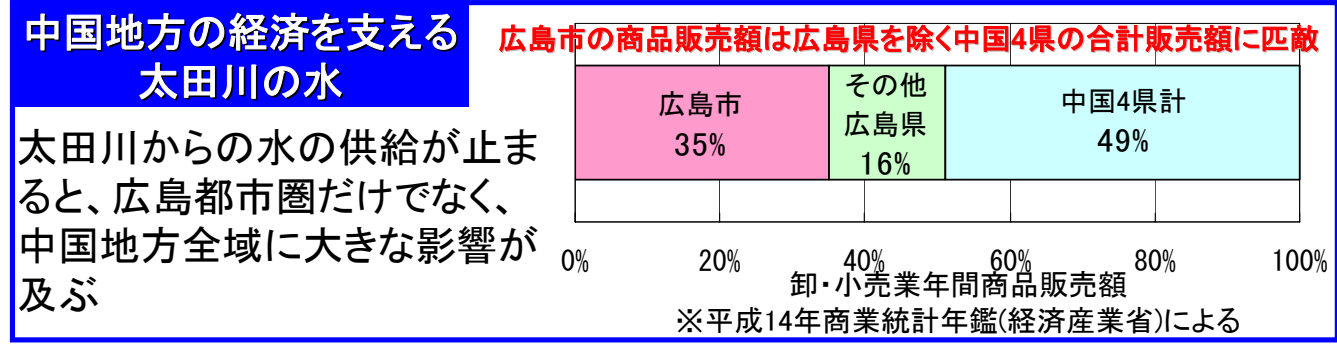
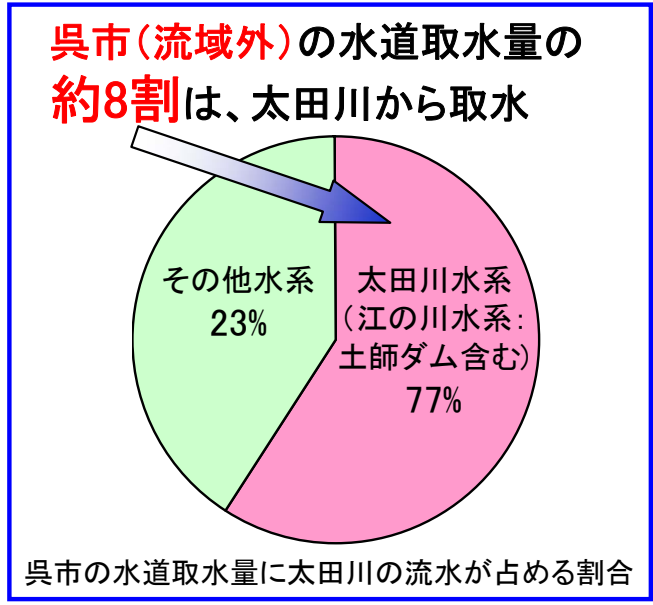
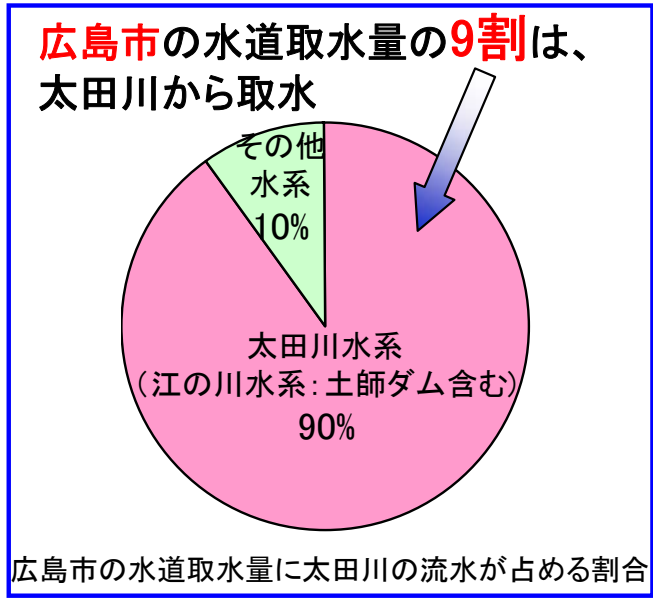
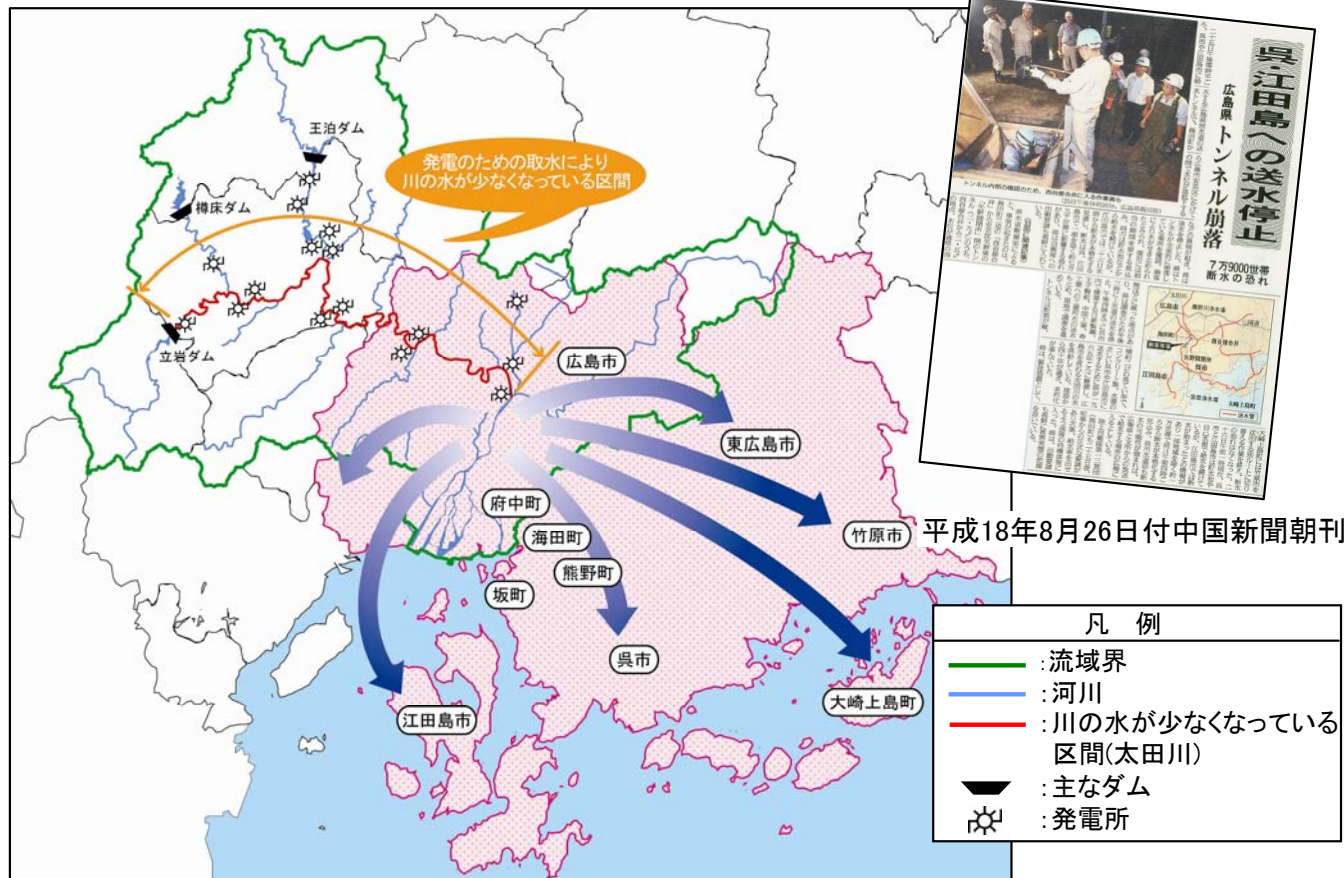
- : 堤防高が充足
- : 暫定的な計画高潮位対応
- : 堤防高が不足
- : 不明

※出典: 国土交通省「ゼロメートル地帯の高潮対策検討会」資料に広島湾情報を補足

7. 太田川の水利用

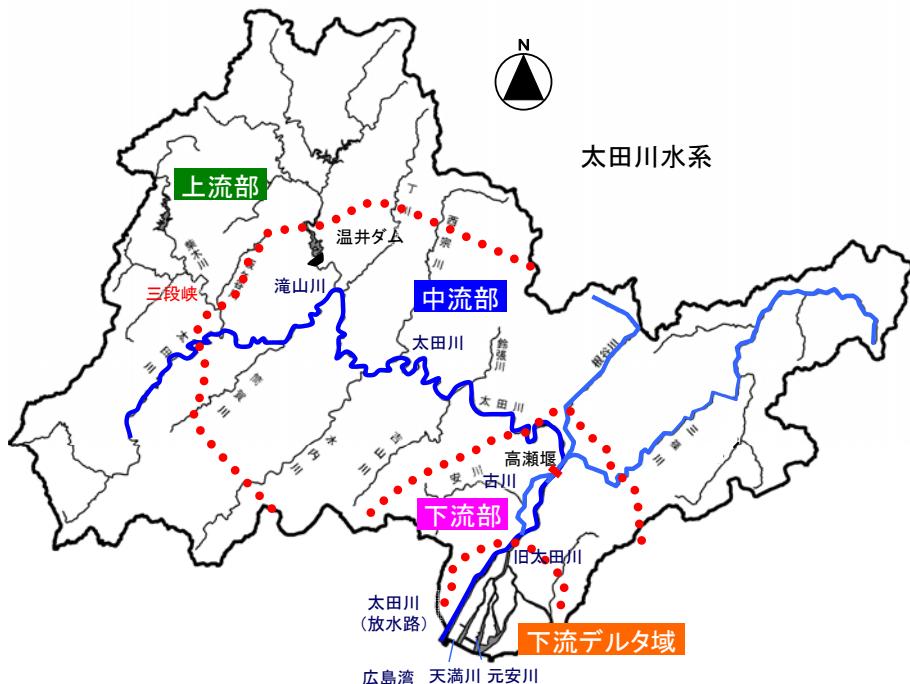
■暮らしを支える太田川の水

- 高瀬堰で開発された16.4万トンの水と土師ダム(江の川)から分水された1日あたり30万トンの水が広島市、呉市、東広島市その他、島しょ部まで広く供給



8. 自然環境

■ 深い緑に包まれ、清らかな流れを育む上流部から、干潟に代表される塩性湿地が形成される下流デルタ域まで、それぞれの特徴に応じ、多様な自然環境が残る太田川



上流部

- ・河床勾配1/50~1/100程度で山地部を流れる渓谷
- ・三段峡に代表される美しい渓谷を形成
- ・山地はブナ原生林やミズナラからなる二次林
- ・川沿いの崖地ではヤマセミが営巣
- ・河畔林が発達し瀬と淵が連続する溪流ではアマゴ・カジカが生息



中流部

- ・河床勾配1/100~1/400程度で谷底平野で蛇行を繰り返す
- ・直近下流部まで都市化が進んでいるものの、今なお自然の豊かな地域
- ・瀬と淵が発達し、瀬はアユ等の良好な餌場、緩流域の水際植生付近には、オヤニラミが生息
- ・近年、産卵のため遡上するサツキマスを多数確認
- ・礫河原にカワラハハコが、洪水時に冠水する岩場にはキシツツジが生育



下流デルタ域

- ・河床勾配が1/2,000程度と非常に緩やかで、広島湾は瀬戸内海で最も干満差の激しい地域で大潮時には4mの水位差
- ・市内派川沿川は稠密に都市利用され、自然が非常に少ない中、放水路は通水後40年が経過し、従来の干潟環境を徐々に回復
- ・干潮時には河岸沿いに干潟が現れ、広島湾域で唯一まとまったハマサジ・フクド等の塩生植物群落を形成
- ・汽水域の上流側にはヤマトシジミが、下流側にはアサリが生息



6時間後



下流部

- ・河床勾配1/400~1/1,000程度で平野が広がり、高水敷を形成
- ・河川沿川が急速に市街化
- ・なだらかな浮き石状の瀬はアユの産卵場
- ・州に広がるヤナギ類の樹林はサギ類の営巣地



9. 「水の都」のまちづくりが進む河口域

■ 平成15年に策定された「水の都ひろしま」構想に基づき、国・県・市が一体となって、魅力ある都市づくりを実施

「水の都ひろしま」構想

基本理念

- ① 水辺などにおける都市の楽しみ方の創出
- ② 都市観光の主要な舞台づくり
- ③ 「水の都ひろしま」にふさわしい個性と魅力ある風景づくり



基本方針

- ☆つかう(市民による水辺の活用)
- ☆つくる(水辺空間整備とまちづくりの一体化)
- ☆つなぐ(水辺のネットワークと水の都の仕組みづくり)

☆つかう(市民による水辺の活用)

公共空間の多目的利用を目指す社会実験



・平成17年10月開業のオープンカフェ(広島市)により、にぎわいのある水辺を創出

水辺の結婚式

水辺のコンサート

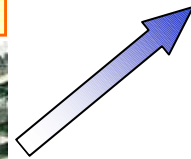
ホテルベンチ



水辺などにおける都市の楽しみ方の創出

☆つくる(水辺空間整備とまちづくりの一体化)

基町環境護岸の整備(S54~S58)
・治水と親水性を考慮した護岸整備
S50年頃



元安川親水テラス(H8)
・世界遺産「原爆ドーム」等の周辺景観に配慮した整備



高潮対策事業(S44~)
・水辺空間や都市景観への配慮などまちづくりと一体となった整備を実施



国が高潮堤防を、市が緑道整備を一体となって実施、市民の散策等に利用



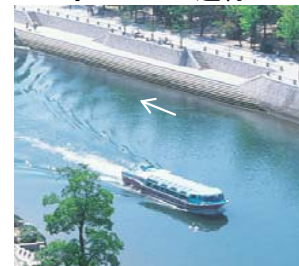
☆つなぐ(水辺のネットワークと水の都の仕組みづくり)

水辺の散策路のネットワークづくり
・幹線道路のアンダーパスを整備し、水辺の快適な歩行空間を確保



水上交通のネットワークづくり

水上バスの運行



水上タクシー(雁木タクシー)



10. 太田川水系河川整備基本方針の概要

【平成19年3月30日策定】

流域及び氾濫域の概要

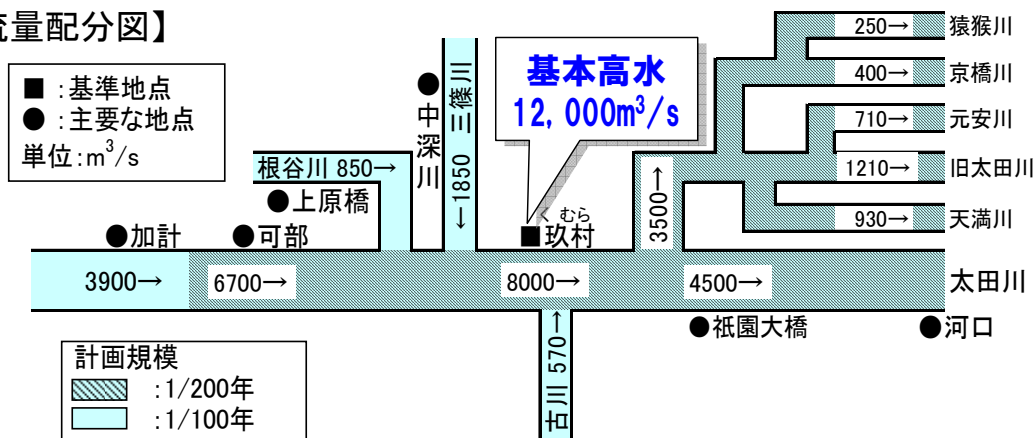
- 流域には中四国地方唯一の百万都市である広島市街地が形成され、中枢管理機能が集積
- 太田川下流デルタ域の市街地は江戸期～明治期に干拓により形成されたいわゆるゼロメートル地帯 洪水・高潮によりひとたび氾濫すれば被害は甚大



災害の発生の防止又は軽減

- 工事实施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量確率(1/200相当)や既往洪水の検証等を踏まえ、基本方針においても既定計画の基本高水ピーク流量12,000m³/s(玖村)を踏襲

【流量配分図】



- 太田川(放水路)、市内派川、高瀬堰地点等の流下能力を総合的に勘案し、計画高水流量を基準点玖村において8,000m³/s(既定計画7,500m³/s)と設定
- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、上流既設ダムの有効利用等により対応
- 高潮対策については引き続き関係機関と連携・調整し、広島湾域として一体となって実施
- 中・上流部における床上浸水対策は、地域毎の地形特性・居住形態に応じて、
①連続堤の整備、②輪中堤の整備、③道路の嵩上げにあわせた宅地の嵩上げ等の対応

河川環境の整備と保全

- 自然豊かな河川環境を保全、継承
- 市内派川を含む河口域では、国・県・市が協力して「水の都ひろしま」構想を基に、水辺の賑わいをもたらす活動の支援を実施
- アユ、サツキマス等の回遊魚が生活史を支えるため縦断的な生息環境を確保
- 多様な動植物の生息場としての干潟環境の保全・確保



河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 動植物の保護・漁業など9項目の検討により、維持流量を設定し、水利流量、流入量を含めて正常流量を矢口第1地点において概ね15m³/sに設定
- 発電等による減水区間の流況改善に向けた取り組みを関係機関の協力のもとに継続



瀬 (減水区間)

3. 住民アンケート結果の概要

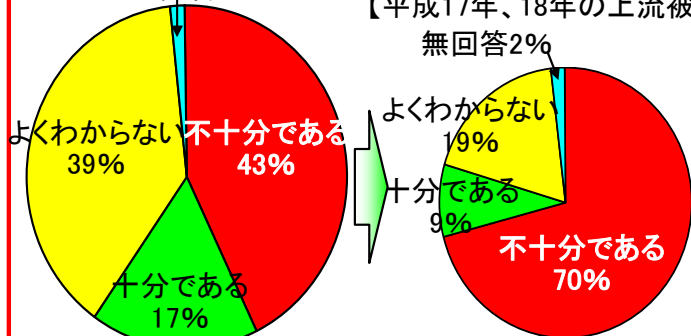
住民アンケート結果の概要

■平成19年7月16日～8月10日に実施したアンケート調査では、3,167通の回答が寄せられる

災害対策について

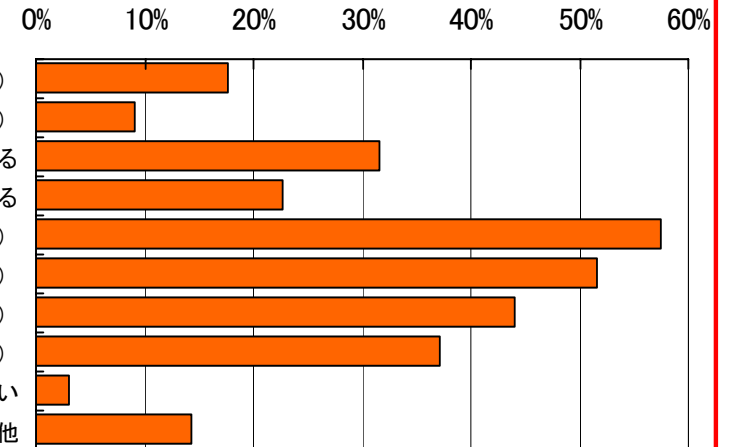
「十分である」17%に対し、「不十分である」は43%
被災地域に限定すると70%が「不十分である」と回答

【全体】無回答1%



太田川の災害対策について

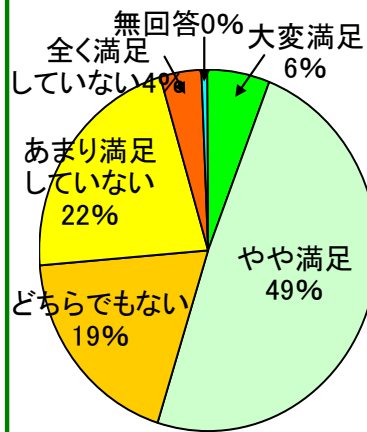
- 上流で洪水を貯める（ダムなどの施設）
- 川幅を更に広げる（引堤）
- 河床を更に掘る。川の中の樹木を更に伐採・撤去する
- 堤防を更に高くする
- 洪水が来ても堤防が壊れないようにする（堤防の強化）
- 洪水時の情報をわかりやすく提供する（雨量・水位情報等の提供）
- 日頃から災害に備える（防災意識の普及・啓発を図るための広報）
- 災害が起こればすばやく対応する（水防団等による活動強化）
- 今のままでよい
- その他



太田川の災害対策と考えられる必要な対策

環境について

「大変満足している」、「やや満足している」を合わせると55%
半数以上の回答者が太田川の環境に満足。しかし、不満を持つ回答者も約3割存在



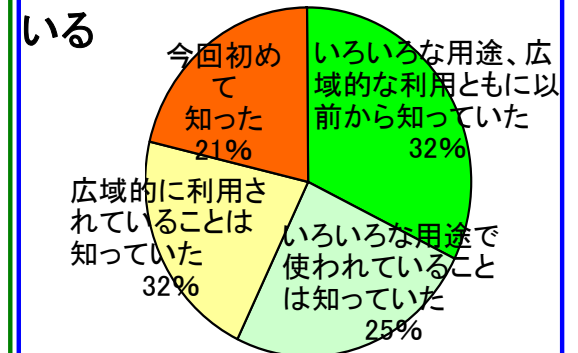
現在の太田川の環境について



太田川の環境をより良くするために必要なこと

水利用について

「今回始めて知った」という回答者は約2割。
多くの回答者が広域、多目的に利用されていることを知っている



太田川の水がいろいろな用途で、広域的に利用されていることを知っていたか